

日本診療放射線技師会と政策の関わり

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2022年の新春を迎え、謹んで新年の賀詞を申し上げます。

平素は本会の事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。本年も昨年同様にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による国内全域への感染拡大の混乱も鎮まり、ウイルスと共存していく時代になりつつあると思います。これからも感染力の強い変異株の発生のたびに新たな対策を講じる必要があるかもしれませんが、会員の皆さまにおかれましては、ご自身の健康にもご留意いただきたいと思います。

さて、昨年（2021年）には診療放射線技師法改正があり、われわれにとって新しい時代を迎えたと言えます。このたびの法令改正の過程を振り返ってみますと、厚生労働省主催の検討会で詳細なヒアリングや検討会による意見交換がなされ、与党の部会による検討の後、委員会審議、衆議院本会議審議、参議院本会議審議などを経て法案が成立しました。この過程で本会会員である畦元将吾衆院議員が、このような政策決定の場に診療放射線技師として関わることができました。このことは大変重要であったかと存じます。その後の2021年10月31日に行われた第49回衆議院選挙の結果、畦元会員は再び衆院議員として活躍できることになりました。

さて、本会は職能団体であり選挙活動は行いませんが、政治団体としての日本診療放射線技師連盟（東京都選挙管理委員会に登録）が選挙支援を行い、多くの支援者のおかげで当選に至ったと考えています。また自民党総裁選挙前には現在の岸田文雄総理から本会へのヒアリングが実施されました。その際に、われわれの業務内容説明をはじめとして、診療放射線技師の適正数配置についてお願いしました。この時、たくさんの報道関係者にも私たちの報告を聞いていただくことができ、診療放射線技師が多様な業務を担っていることも広く認識いただける良い機会になったと思います。

その後、2021年11月24日に私は首相官邸を訪問して再び岸田文雄総理と懇談する機会を得て、再度業務拡大、新型コロナウイルス感染症対応、診療放射線技師の適正数配置について相談致しました。これらの特別な会見の機会も畦元衆院議員の計らいによるもので、本会においてもこれまでになく首相との貴重な意見交換の場となりました。このように、本会は政策に関わるヒアリングや要望書提出など広く政党や官公庁と関わる役割を果たしており、会長として幅広く連携を強めていくように努めております。

官公庁との連携や関わりについてさまざまな医療職種が、いわゆる医系技官を配し活動を行っております。診療放射線技師職においては主に国立病院機構から出向しての活動実績がございますが、他の医療職種に比べてそう多くないところです。そのため昨年は環境省放射線健康管理担当参事官室に2人の診療放射線技師を雇用いただき、診療放射線技師としての能力を生かした活動をしていただいています。他の医療職と同様に官公庁と連携し専門性を発揮することで、行政を通じた国民への貢献をしていただけるような体制づくりを目指していきたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症を乗り越えて、本年が皆さまにとって良い年になりますことを祈念して、新年のあいさつとさせていただきます。

